

2023年7月2日(日)

日本キリスト教団 **久宝教会**

第66巻第13号(通算3345号)

教会設立 1959年6月14日

〒581-0072

大阪府八尾市久宝寺6丁目7-10

TEL 072-992-2131 FAX 072-992-2135

郵便振替: 00980-5-212130 「日本基督教団久宝教会」

【集会案内】こどもの礼拝: 毎日曜 10:00-10:20 何かお悩みがありましたらご遠慮なくご相談ください

主日礼拝: 毎日曜 10:30-11:30 小さい子どもたちも、いつでも歓迎いたします。

しゅうほう

週報

教会標語

かみさまがすべてのひとと共におられる
ことを証ししていく教会



ホームページ「久宝教会」
(ウェブサイト)

<http://www.koinonia.or.jp/kyuhokyokai>

【連絡先(牛田)】090-9161-4027

kyuho-church@koinonia.or.jp

主任担任教師・牛田 匡 牧師

担任教師・水谷 憲 牧師

隠退教師・小林 達夫 牧師

この「確かさ」は当て外れということがありません。私たちが頂いている聖霊の働きによって、人を大切にする神の思いが、すでに私たちの心に注がれているからです。(ローマ5:5)

聖霊降臨節 第6主日礼拝

《礼拝はインターネットで中継配信いたします。ホームページにてどなたでもご視聴いただけますので、それぞれの場所で共に礼拝をして頂きます》

前 奏 黙 禱

招きの詞 詩編

賛美歌 21-561番「平和を求めて」(©著作権消滅)

聖 書 ルツ記

22編 27節

1章 1-22節

お 祈 り

賛美歌 21-542番「主が受け入れてくださるから」(©JASRAC)

メッセージ「あなたと私をつなぐもの」

牛田 匡 牧師

賛美歌 21-419番「さあ、共に生きよう」(©JASRAC)

聖 餐

牛田 匡 牧師

共同のお祈りと、平和のあいさつ

賛美歌 21-524番「われらみ名により」(©著作権消滅)

主の祈り

献 げ 物 (*)

派 遣 21-91番「神の恵みゆたかに受け」(1節のみ)(©JASRAC)

祝 福

牛田 匡 牧師

後 奏 アーメン コーラス (21-40-6番)(©教団讃美歌委員会)

報 告 (4頁をご参照ください)

《席にお座りになったままで礼拝にご参加ください》

* 「献げ物(献金)」は参加費ではございません。

受付に献金箱がございます。ご用意のある方のみ、お献げください。

27 苦しむ人は食べて満ち足り

主を尋ね求める人は主を賛美する。

あなたがたの心がいつまでも 健康やかであるように。(脚注 a: 直訳「生きるように」)

聖書 ルツ記 1 章 1-22 節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

1b 士師たちが世を治めていた頃、国で飢饉が起こったので、ある男がユダのベツレヘムからモアブの野に身を寄せようと出かけて行った。妻と二人の息子が一緒であった。2 彼らはユダの ベツレヘム 出身のエフラタ人で、男の名はエリメレク、妻の名はナオミ、二人の息子の名はマフロンとキルヨンと言った。彼らはモアブの野に着いて、そこに住んだ。(b: 別訳「裁き人」、c: 「パンの家」の意)

3 だがナオミの夫エリメレクは死に、ナオミは二人の息子と共に残された。

4 やがて息子たちはモアブの女をめぐらした。一人の名はオルパ、もう一人の名はルツと言った。彼らはそこに十年ほど暮らしていたが、5 マフロンとキルヨンの二人も死んだ。こうしてナオミは二人の息子と夫に先立たれた。

6 そこで、ナオミは嫁たちと連れ立って、モアブの野から帰ることにした。主がその民を かえり 顧み、人々に 食物 をお与えになっていることをモアブの野で耳にしたからである。7 彼女は二人の嫁と一緒に、住んでいた所を出て、ユダの地に帰って行った。(d: 直訳「パン」)

8 ナオミは二人の嫁に言った。「さあ、それぞれ自分の母の家に帰りなさい。あなたがたは亡くなった息子たちと私によくしてくれました。それと同じように、主があなたがたに慈しみを示してくださいますように。9 主があなたがたそれぞれに、安らぐことのできる 嫁ぎ先 を与えてくださいますように。」ナオミが口づけをすると、二人は声を上げて泣いて、10 言った。「私たちはあなたと一緒に、あなたの民のところに帰ります。」(e: 直訳「夫の家」)

11 しかしナオミは言った。「帰りなさい、娘たち。どうして私と一緒に行動としますのですか。あなたがたの夫になるような子が私のおなかにまだいる とでも思っているのですか。12 帰りなさい、娘たち。行きなさい。私は夫を持つには年を取り過ぎています。たとえ私が自分にはまだ望みがあると考え、今夜にでも夫を持ち、男の子を産んだとしても、13 あなたがたはその子が大きくなるまで待つというのですか。それまで、あなたがたは夫を持たないままにいるのですか。

それはいけません、娘たち。あなたがた^gよりも私のほうがはるかにつらいのです。主の手が私に下ったのですから。」¹⁴二人は声を上げてまた泣いた。オルパはしゅうとめに口づけをしたが、ルツはしゅうとめに抱きついて離れなかった。

¹⁵ナオミは言った。「御覧なさい、オルパは自分の民のもとに、自分の神のもとに帰って行きました。あなたも^h彼女の後を追って帰りなさい。」¹⁶しかしルツは言った。 (f: 補足。g: 別訳「のことで」、h: 直訳「あなたの相嫁」)

「あなたを見捨て、あなたに背を向けて帰るなど

そんなひどいことをさせないでください。

あなたが行かれる所に私は行き

あなたがとどまる所に私はとどまります。

あなたの民は私の民

あなたの神は私の神です。

¹⁷あなたが死なれる所で私は死に

そこに^{ほうむ}葬られたいのです。



ⁱ死に別れでなく、私があなたと別れるならば

主が^{いくえ}幾重にも私を罰してくださいますように」(i: 直訳「死が私とあなたを分かつ」)

¹⁸ナオミは、ルツと一緒にいくと決意を固めているのを見て、それ以上言うのはやめた。

¹⁹二人は旅を続け、ついにベツレヘムに着いた。ベツレヘムに着くと、町中が彼女たちのことで騒ぎ出し、女たちは、「まあ、ナオミではありませんか」と言った。²⁰ナオミは女たちに言った。

「^jナオミと呼ばずに、^kマラと呼んでください。(j: 「快い」の意、k: 「苦い」の意)

全能者が私をひどく苦しめたのです。

²¹私は満ち足りて出かけて行ったのに

主は私を身一つで帰されたのです。

どうして私をナオミと呼ぶのですか。

主は私を¹痛めつけ (1: ギリシャ語・ラテン語による。ヘブル語原典では「答える」)

全能者は私に災いを下されたのです。」

²²ナオミがモアブの野から^m来た嫁、モアブの女ルツと一緒に帰り、ベツレヘムに着いたのは、大麦の刈り入れが始まった頃であった。(m: 直訳「帰って来た」)

《先週のメッセージより》6月25日 聖霊降臨節 第5主日礼拝メッセージ

「彼女の涙」より

岡嶋千宙伝道師

聖書 創世記 21章 14-21節

家を追い出され、行く宛もなく荒れ野をさまよい、食料も水も尽きて、ただ死を待つしかなかったハガルとイシュマエル。瀕死の状態にあった二人のもとに天からの神の使いが現れ、二人を救う。一見すると、ハッピーエンドで終わる後味の良い物語。でも、つまずいてしまう。この場面で泣き声をあげ、涙を流していたのは母親のハガルのはず（16節）。なのに、二人が救われたのは、神が「子どもの泣き声」（17節）を聞いたからであるという。しかも、救い出された二人に与えられる神の祝福は「彼を大いなる国民とする」であり、そのために神は「子どもと共におられ」る。ハガルの涙、泣き声、存在が、イシュマエルのものに置き換えられている。まるで、ハガルは、イシュマエルの母という、その役割においてのみ登場することが許されているかのような。異国エジプトからアブラハム一家のもとに連れて来られた奴隷だから。女性だから。その胎から生まれた子どもは、アブラハム一家にとっての正統な跡取りではないから。部外者、よそ者。だから、その声を、涙を、存在を、無視する。それで良いのだろうか。残念ながら、創世記にも、旧約の他の書物にも、ハガルが再び登場することはなく、ゆえに、その存在が、アブラハムとの間に子どもを産んだ母ということ以上に、回復されることもない。

ハガル自身ではないけれど、彼女と同じような境遇にある女性たち、社会において、存在すら忘れられていた女性たちに目を向け、その声を聴き、思いに身を寄せ、涙を掬いとった人がいた。新約に証しされるイエス。一人の名もなき女性、ハガルのように、救い主に通じる家系の人物と関わりがあるわけではないその女性の行いを、イエスは否定しなかった。周囲の人たちがこぞって非難するなかで、ただ一人、イエスだけが、彼女の心と行動を受け止め、彼女の存在を大切にした。名前も知られない彼女のことを、「決して忘れない、決して忘れられることはない」、とイエスは語った（マタ 26:6-13; マコ 14:3-9）。

イエスの姿に倣い、わたしたちもまた、覚え続けていく必要がある。一人一人の涙。声。思い。存在。無きものにしない。この時この場で目にすること、耳にすること、触れること、感じること。その背後にある一つ一つの心の動き、痛みや悲しみ、苦しみ、あるいは喜び。忘れられそうになっている一人ひとりの存在に目を向けていく。今日、今、この場所から。

毎週の「メッセージより」は、ウェブサイト等にも順次掲載されています。

ホームページ



Facebook



YouTube



◎ 先週の報告 (6月25日)

礼拝出席 大人7名 子ども3名

献金 大人6,000円 中継動画再生数12回 感謝

礼拝後に釜ヶ崎・いこい食堂支援のために207個の「おにぎり」を作ってお届けし、いこい食堂前の四角公園にて皆様にお渡しすることができました。またお米や衣料品を献品いただき、どうもありがとうございました。

◎次週 2023年7月9日(日) 部落解放祈りの日礼拝

招きの詞 詩編 35編 1-3節

聖書 ルカによる福音書 7章 11-17節

メッセージ「いっしょに汚(けが)れる」水谷憲牧師

賛美歌 21-210 (©P.D.)、21-280 (©JASRAC)、21-520 (©教団讃美歌委)

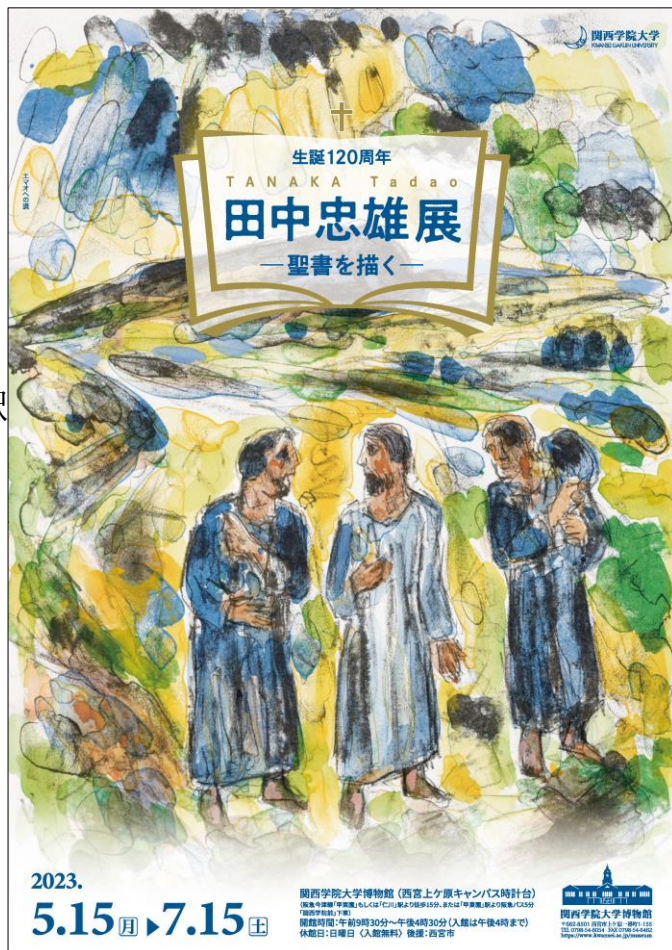
14時～、服部墓地にて墓前礼拝を行う予定です。



◎お知らせ

- ・本日、礼拝後に7月期の「教会を考える会」を行います。
- ・新型コロナウイルス感染症は、「季節性インフルエンザ」などと同じ感染症の分類になりました。しかし、ウイルス自体が無くなったわけではありませんので、それぞれの方の体調等に合わせて、引き続き感染症予防には留意しながら、それぞれの方が参加しやすい形で礼拝にご参加ください。「週報」や「メッセージ(全文)」はホームページからダウンロードしていただくことができます。中継録画のメッセージ部分のみをカットした動画を、YouTubeでご覧いただくことも可能です。

- ・7月15日(土)まで兵庫県西宮市にある関西学院大学内の関西学院博物館にて、洋画家・田中忠雄(1903-1995)生誕120周年を記念して絵画展「田中忠雄展—聖書を描く—」が開催されています。開館時間は、日曜日を除いた9時半～16時半。入館・閲覧は無料。阪急電鉄「甲東園」または「仁川」駅下車徒歩約15分。バスは「甲東園」駅より約5分「関西学院前」下車。またはJR「西宮」駅からバス約20分「関西学院前」下車



◎ 次週以降の行事予定

	メッセージ	行事
7/16	牛田牧師	
7/23	岡嶋伝道師	おにぎり支援
7/30	岡嶋伝道師	誕生者祝福式
8/6	水谷牧師	平和聖日